

第14回症例検討会

case26

2022年1月17日

圧迫骨折→再度転倒し骨折
鍼灸施術中止の事例

患者年齢・性別

80代 女性

→ 弊所にご家族で通院している方の義理のお母さま。家族の信頼があり紹介して下さった

S (subjective) : 主観的情報

- 主訴 : X年8月に発生した腰部圧迫骨折による全身の痛み 歩行困難 便秘 胃の痛み 睡眠障害など
- X年8月31日M総合病院の整形外科医師より脊椎圧迫骨折後の疼痛緩和目的で鍼灸施術同意。往療への同意も得る。
- 既往歴 : X-6年6月 乳がん手術 X-6年12月 脊柱管狭窄症手術
- 家族歴 : とくになし
- 現病歴 : 高血圧・骨粗しょう症
- アムロジピンベシル酸塩服用 (高血圧)
- テリパラチド自己注射 (骨粗しょう症)

O (objective) : 客観的情報

- 初診日

X年9月13日

- 所見

痛みが強く寝たきりであったためバイタルチェックなど省略
首肩周辺に硬結

A (assessment) : 評価

- 緊張が強い

P(plan) : 計画(治療)

- 疼痛緩和目的・症状緩和目的

持病があり、既往歴もあり、また主訴も多岐にわたるためまずは症状緩和目的での施術を行うことを提案。定期的に医師にも施術の報告をする。

本人の希望も考慮しながら鍼治療に依存しないよう週2, 3回の施術から開始する事にした。

→

トラムセツトなどの疼痛緩和目的で処方されたと思われる薬剤が効かないと感じている。しかし、医師や整形外科のせいではないことをよく説明し医師とコミュニケーションをとるように勧めた。

経過

- X年9月13日から施術開始

週2.3回の施術により9月25日にVAS10→8へ。

少し改善がみられる。

しかし9月末ご家族が逝去。いったん施術中止。

- ・10月11日施術再開 2回ほど施術を行う 本人も鍼灸治療に対して前向き 10/16にトイレに行こうと2, 3メートル歩行した際、転倒。痛みが強いため鍼灸の出張施術希望。電話で相談を受ける。

→すぐに病院の受診を勧めた。→救急車で搬送。入院、オペとなった。大腿骨骨折。鍼灸施術中止となった。

特記事項・参考文献

- 施術中 ご主人が闘病。亡くなってしまった。
 - 痛みや不調の訴えにはそのストレスもあったものと思われる。少しでも寄り添うことが出来たか？今後の課題にしたい。
 - 転倒を予防するための生活指導は充分であったか？
 - いまだ信頼をされ、ご家族は弊所での施術を続けている。信頼関係は損なわれていないものの転倒してしまい大腿骨骨折し鍼灸施術が中止となったことは事実である。プロの鍼灸師として、転倒予防のための指導がもう少し出来なかったか？悔やまれる。
 - 高齢者の施術は難しい。
 - マルチモビリティ等の対応を医師の先生方からアドバイス頂きたい。